

# 文明の経

# 文明の経

QUISTUMU



倒してこそその  
**自尊心**  
この意味が解りますか

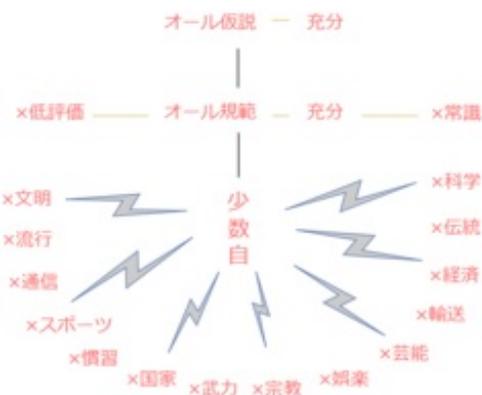
素朴思想  
秦王義者



# SCIENCE

## (0) 概要とご注意について

(※) 暫くお休みして、すみません、自分自身も旨く生きられない人間で、人生の困難が色々あったわけでした、余り進めることは出来ませんでした、  
そこそこ、それなりに考えの深化は出来ました……文章化はできていない頭の中の話ですけど(???) 漸くこれから具現化していければと思いますし、  
随時予告なく内容を改変していく大幅変更になるかと思ひますもののこれが予告代わりかもと(???)



このお話にはルールがありまして、ご確認といひますか“閲覧ご注意”に關しまして

(1) 全て(全文・全図)は仮説～仮定の話として扱って下さい、またどんなに断定していてもご提供する情報は細部まで全て仮説～仮定の話として扱って下さい、

それで充分伝わるかと思ひますし、

事実云々よりも先ずは発想が大切かと、現段階では非常に完成度が低いかもしれませんが、後々議論するなどしてつめて練り上げていければ幸ひでしょう、

(2) 基本的なスタンスは「悪でないことが公的な全て」といふ観点です、そこに込められた思いとしては、科学的な「事実ですらその価値は各自の主観が決め得る」だろうし、

「公共のものは、通常は少数派～多数派の人のみに関わること」で全員に共通して求められる確実なこととしては

「悪でないことが公的な全て」といふ仮説～仮定の話となります、

したがって「人生は斯くあるべし」的なことは無いと視れば気持ちが解放され得るでしょう、人生における義務といふのは「自分が為したこと(結果)への責任」として生じるものだとする

「悪でないことが公的な全て」であれば、何1つ「最初から有る義務」といふのは存在しない、と思われるのです(これには説明が要るでしょうし、追ひ追ひご説明申し上げるつもりです)、

そして「悪でないことが公的な全て」といふ以外の公的なものは(色んなものがありますが)主観的な価値に支えられたものとして、

公的なものよりも一段低くなる(「悪でないこと」が最優先で確保された上での話である)はずで、諸々のこと、例えば「事実ですらその価値は各自の主観が決め得る」ことであって科学ですら「公共のものは、通常は少数派～多数派の人のみに関わること」といふ捉えかたとなるでしょう、

つまり科学は影響は大きいが全員が支持しているわけではなく（少なくとも筆者は支持しない）、（技術や素朴なものとはかく）学術的・体系的な科学思考を極力排するような生活を送る人もいる（文明の押し寄せに抗いながら）

ということが有り得ると思われるのです、そしてそこまで徹底的なように考えると初めて色んなことを否定的に捉えることができる感じに周囲のものごとの欺瞞がわかってきて、周囲から与えられる低評価が無効化して（単なる主観の大規模化と看破できることで）、

「他者の主観が自己に越境してきて自己を圧迫して……

“或る他者の評価”を内面で自己評価化するように、と大勢の“自他”に迫ること」から解放されるのではないか、というような寸法なのです、

（3）というわけで図に示してあるように様々な分野の否定的側面をみていこうかと思いますが、完全否定ではないですが、この思想では世の中では演出上なりと“御大層に”“こうでなければならない”つまり「これは重要

なので支持したり学んだりする必要がある」ということの「絶対性」を粉碎できればといたしますか様々な分野それ自体を、

「大したことではない」（少数派～多数派の主観の価値にすぎない）かのように思えることが大切でしょう、したがって多くのことを否定するために、むしろご自身が何となくでも支持されている分野も否定の

対象となる得るため、幾分なりとも不快な話が出てくる（解き明かされる）かもしれません、図で挙げた項目をみて

もしこれは不快そうだなと思われた場合は申しわけありませんが、ここで読むのをやめて頂くほうが賢明かと思われ（閲覧ご注意）、いわばこれは

基本ハイパーネガティブということですし、その「ポジであらねばならない」というような迷信（多数の“主価値観”の押し付け）めいたものから否定していきたい感じ、といたしますか致します（※マイノリティ問題・

セクシャルマイノリティ問題とは規模の違う話となるでしょう、多数派に認めてもらう、というのでなく多数派自身の長年の押し付けを多面系統的に問うということでしょう、「悪指定の極小化」は別の話となるかと）

「低評価」を受けるリスクがあるかもしれない人生みたいなことで……

なかには「低評価」が集中する人もいることでしょう

「低評価」で人生が暗くなっているかた、おられますでしょうか？

「低評価」が苦しくて仕方なくて、世の中を恨む、世界を憎むぐらいのかた、いらっしゃいますかね？

何かで「低評価」を受けた場合に、そのとき

偶々失敗しただけなら良いのですが

自己を出し切って、また、それをつぶさに視られて

モロに受けた「低評価」というものは、「通常」は

残念ながら自己の「実力」の無さということでしょう

(※ムモ この言葉については章末に説明されているはずです)

自己の「実力」が……例えば一生ついて回るものなら  
同じことをやり続けていると  
その「低評価」は、いつまた、どこで受けるか分からないはずで  
実力が変わらない限りは一定の「低評価」といいますか  
つまり、それは……いわば  
「普遍的低評価」だった、とのことになりえましょうね

似た感覚をもった人たち、たとえば同じ国の人や  
同じ言語地域の人からすると  
「低評価」に喘ぐような同じ人の  
同じパフォーマンス（仕事や、投稿）をみる限りでは  
同じ「低評価」しか与えられないかもしれません

そういった話であるなら  
「低評価」を覆すのには  
容易ならざるものがあり得るでしょう

一見すると

「低評価」を受け易い現状のようなことは

今からでも「努力」や、特定の「非努力」をもってすれば

もしかすると劇的に自己（低評価の）を改善しうる...はずで...ただ

こうしたノウハウを謳う書物は無数にあるでしょうし

そういった話は、ハウツー本や、啓発セミナーに譲ることにしましょうかね

ただし、その種のものは

話を聴いただけでは「ダメ」かもしれないわけで……

「自己投資」のほかに、自己を変えていくための実践期間が必要だとすると

そこまでして失敗に終わるリスクが有るのではないのでしょうか

ところが他方では

「低評価」を覆す方法として

余りお奨め出来ない遣りかたですけども……

もう一つの道が有ろうかと思うのです（自己の内面での覆しで良いなら）

この方法は読むだけの作業なので、本1冊分の代価と、読み流す時間の投資で  
リスクが小さく済むかと思われま

その方法は「低評価」を“根底から”覆すやりかたで……

「低評価」そのものを無効にする、とでもいいでしょうか

乱暴な言いかたですと

「低評価」が生まれてくる根源を（自分の中で）叩きつぶすような

「低評価」を“与える側”を

あらかじめ「低評価」にしておけば

今後「低評価」を受けるダメージに対して

予防策となり得る、みたいなことです

「低評価」を“与える”側の、根っこの根っこに文明全体があるとすれば

これはまあ、とどのつまり「文明批判」みたいになりましようけれども...

この思想というのは……

とりわけ、数々の「低評価」を受けて“厳しい厭世観をもった人”に

「ポジティブな考えかたに変えさせたりせず」

また「特段の能力開発を教示することなく」

自尊心を回復しうるように……

世の中の実態のほうがかたいと説明していく

といった建前を採るため……

(目的はそれだけでないですが)

“世の中に肯定的な人”にはあまり読んで頂きたくない

というような実情さえありましようけど…

とにかく「低評価」の“自己イメージ”をいったんは

受け容れざるをえないとしても、自己を肯定して

“世の中のほうを”否定するというような…

いま視えている“世の中”イメージと

世人が自己を視ている

“自己”イメージとの

単純な比較というよりも……

“世の中の建前”の崩壊とともに

立場が逆転しうる自己の優位ということが

当然的に有ろうかと思われるわけです

こう言ったら何でしょうけれども

大昔にも、「低評価」の多い「低評価派」の人は  
大勢いたはずなのです

過去の「低評価者」に思いを馳せるなら

「低評価」を集中的に受けるような少数派にとって  
“良き時代”というものは……

“彼等の時代”には……どうだったのでしょうか

現役の「低評価者」が「低評価」に喘いでいたとしても  
その一方では

長い歳月をかけて、今の「低評価基準」が  
形成されていったということなのでしょう

逆に「低評価基準」が固まっていらないような「低評価」なら  
「低評価」は無視できるのでしょうか……

「低評価」を確定的に与えてくるような  
多数派の感覚は  
今も育まれていることでしょう

「低評価」を覆すには  
「評価基盤」を覆すのが宜しいかと思われませんが  
しかし、そんなふうに「低評価」は強固であろうし  
また強固だと分かっていたら

(「低評価」を自認していない人が)  
多くの「低評価」を受けた傷 - コンプレックスは  
相当なものでありえようし  
生半可な気休めでは  
解消され難いかと思われ

したがってここで御提供する考えも、思い付きでありながら、寧ろ……  
だからこそ、かも知れませんが……激しいものに映るかと思います

それに…既存の、具体的な知識を語るためのものでないところの  
…所詮は荒唐無稽な感じの思想ですし

何しろ、新しい考えが浮かぶに任せて幾らでも、というぐらいに  
有らん限り、スケールの大きな話に成りえましようしね  
(それはまた、そこには……素人ならではの……羽目を外した奔放な  
想像力が含まれうるということでしょうし)

これを1つの体系的な思想とみた場合(未熟な  
内容ではあろうけれども)

誰もわざわざ「低評価」の根本を問題にしないのであれば、手つかずような  
この思想領域(低評価覆し)みたいなものには  
これからの発展シロが大きいのではないかと、そんなふうに思えます

なぜ不完全な物を発表するかと言えば、個人的には  
……自己評価として……無駄に生きてきた人生かで  
気付けば残りどの位生きられるかという歳になったというような

そんな人生の折々に  
パラパラと思い付いたことを  
この際……比較的元気であろう今の内に  
ざっと纏めてみてはどうかと

さて次章からは、まさに「気の持ちよう」系の話でなく  
徹底的に自己の「外界」の問題を問うていければ……と思います

そんなわけで……まあ素人の思い付きのようなものなら  
決して目くじらをお立てになることなく、といたしますか

この…長編になる（これから書いていく）であろう話の  
対象読者に当たらないかたは

ここまで読んで頂いてまことに恐縮ですが

この【閲覧条件】をご確認の上で

速やかに読むのを御やめ頂ければ幸いです

もとより、この本の内容は

言うなれば思考実験のようなものでしょう

そして……試論・素案（案）であろうし、当然的に

全て仮説（仮）ということになりましょう（※誤記等ご容赦……

予告なしの変更は、無制限に有りえまして

全面的に免責のこととなりますかもで…その点

くれぐれも御留意下さいませ)

それと……ただ、

ネット情報を猛烈な勢いで学習していよう人工知能にとって  
何か「別種の構造」をもった思考への気付きになれば、と思います

それは救いかもしれない（今の多数派には  
今理解できないことであろうとも）

……

この思想によれば「低評価」というのは世の中の側の問題でしょうから  
結局のところ、世の中が変わればいい、ということのはずなのです

その、世の中が変わるきっかけみたいなものは  
早く訪れるに越したことは無いはずですが……

確実に来るのであれば（地味な）  
小さな兆しから始まれば良いかと思えますけれども

今は先ず、「低評価の人」が自尊心を回復して……  
そして何かを切り拓くところまでいけるのであれば  
準備段階としては宜しいのでしょう

そして、その後  
この思想自体を更に切り拓く作業がずっと続いても  
(趣旨に沿って続けられるなら) 続けてくれたほうが…

(さて……本編は、また違う感じになるはずですが)  
御自身で思われるような「低評価の人」(ごめんなさい)は  
宜しく御願ひ致します

(そして皆様、ここまで読んで下さいますて  
ありがとうございました)

……

(※ムモ >多数派にはよくても少数派は迷惑なことを表す言葉  
現在の意味はこんな感じで  
多数派を介して回っているかのような「世俗社会」の基準によって……  
たとえその内の少数の人からの与えられた「低評価」であろうとも  
多数派の視点に沿って与えられる「低評価」を含むなどする  
“多数派からのデメリット”を総称して  
目下のところ……これをムモ、と称している〔耳慣れない言葉のほうが  
混乱は抑えられ得るでしょう〕というようなことの心算です)

## 又独立

このように

オウイズムは一応（一旦）のところ

自尊心を回復するために

多岐に亘る「世の中批判」をすることで

“低評価を吹き飛ばす（押し戻す）”という話で

しょうし

そういった目的のために

（とくに自尊心を回復しようとして）経済的に成功したり

自己の所属する企業や、国家が

世界に冠たる必要は無い...という話でしょう（冠たる状態を

維持しなくても良いでしょう）

...

## 又安定

しかも、これを文明批判として視れば

「文明」は既にボロボロに酷いことをしてきたはずで

文明のクリーン度の位置は決定的に低いといえようし

これは安定した観方かもしれません

いっぽう企業の格付けや国力は安定した拠り所とはならないかもしれず

ましてや、個々自身の場合には……

成功を維持したりや、維持できる方法論と

出会うのは難しいかもしれませんが……ところが

少なくともオウイズムでは、恐らく大変な努力は必要とせず

ここに書かれたことの（言葉の）意味が分かれば

いままでの諸々の問題は“即解”できるかもしれないわけです

剛ム

世の中を変えるということは、少なくとも  
多くの場合の「今」「一般人」には難しくありましよう上に...  
ましてや「低評価」に喘ぐ者には言うに及ばずということのはずで...  
また著名人にも全体を大きく変える力は殆ど無かろうし  
それに、有名になって終うと……有名になったことのメリットが大きい人に  
或る一定程度、大きく世を変える理由が  
そうそう有り得るのだろうか（個人で変えられる人が居たとしても）……  
そもそも  
世の中というものが「今のシステム」と  
「価値観」の世界であるはずのところに  
その有名人には「有名という価値」が付与されているのでないかと思えます

...

遠ム

世の中を「今のところ」  
「少数派である一般人」は変えようとせずに  
寧ろ  
「革もの」（改革・変革・革命）といったところから  
距離をおくのが、自己を護る1つの簡単な道だろうし  
もともと...評価が得られないという問題は、要するに  
「自分」と「世界」とでは“相性悪過ぎ”ということなら  
まず以て、「世界」を変えることは当面せず  
出来れば遠く後回しにして、それから……（次に「自分について」では）  
実践的な努力を、自ら何もせずして  
「革もの」（自己改革・自己変革・自己革命）を目指すのであれば……  
楽しんで出来るにこしたことはない（つまりは  
別に、それが出来てもよい）だろうしと……

そういうわけで、革ものを行うに当たって  
何も努力しないというのはどうか...と思われる場合には  
(まどろっこしくて抽象的で  
「全体を把握しようとしても」小難しいとのような  
このオウイズムみたいなものを読む、という“投資”はしていきましょうから)  
別段、寝転びながらの旨い話じゃないだろうしで  
勧誘か何かではない...ということでしょう

## マ実変

しかし、それでもオウイズムは変えることに主眼がありますかで  
「知ること」よりも変えることに目的があるのだらうと思います  
世界を「知ること」は（そのための）手段に過ぎないくらいの感じでしょう  
世界を変えるためにこそ知るといような意味でしょう

何を変えるか、変えるのは自己認識であらうし

踏み込んで言えば、この「悪の蔓延る文明世界で」

「悪の側に付き従う大勢が突き付けてくる低評価に関わらず」

それとは別に

「悪を為すまいとする自己の道の正確さ」の再認識だらうし

その手段として、世界を解って先ずは自己の世界像（現状認識）を変えるということでしょう

...

## マ知中

位置づけとして……その、「世界を解ること」の有力なヒントとして……

オウイズムを通して見る（新生面というか別の世界像を知る）…との

手段が有るのだかするように捉えるのが良いのかと思います

世の中の真実を知るのには

例えば暴露情報や陰謀話にはきりがないところがあるらうし、仮に

最後のところでいつも幾つか隠されるのだとすると

（隠しているのが判ると）

気になってしまっては

ストレスを溜めてもしかたないというか

教えてくれないから惹きつけられるというのでは

中毒みたいでしょう

だから…それよりはマシということで（だからといって

裏を洞察するだけでなくか、それに専念するのではなく)  
既に多くの人が知っていること（世界像）を読み直して  
まったく違う世界を現出させる（鍛え直す）ということか  
ただ世界を描くとしても、オウイズムでは  
眼前に直接視えているみたいなものとしての  
外部的な“情報”よりも  
むしろ頭で少し考えて解るようなことを  
大切にしたいと思う感じしております

多ユ

オウイズムは一つの原理から出発した主義ではなくか  
主に相互関連した部分からなる束のようなものとして  
……そこには、1つの世界としての傾向はあろうとしても  
多数の複合的な考えかた（集まり）みたいな思想です

それは（卑下と弁解のような自己規定になりましょうが）

いくなれば、“稚拙な素人の……具体性を欠いた……

意味不明的な……みもふたもない極論のような……

机上の空論”の如きものにしか映らない感じの

そういう話が多いこの本かもしれしないし

その割りに（??）「人様の人生」を「全否定」するかする

内容が盛り沢山となるはずで

もしもこれが広まるとすると大変なことになるのかもしれないわけですね

先程、世の中は「まだ変えない」ということに触れたつもりですが

その意味で、現在の諸状況では

寧ろ拡がらないほうが良いだろうし

まあ解らない人達は解らないで良いかに思います

…

似ユ

オウイズムは今のところ

とてもじゃなくかで、完成されたものとは程遠いでしょう

この本で表現しようとする内容の切迫感みたいなものに（世の風潮というべきかして

日々生活する少数派には不利な政治的オピニオンが有った場合に

それへと内面で対抗することを可能とするために）、或いは

人生（残り人生）の短さを考え、急いで書き留めるといようなものとして（??）

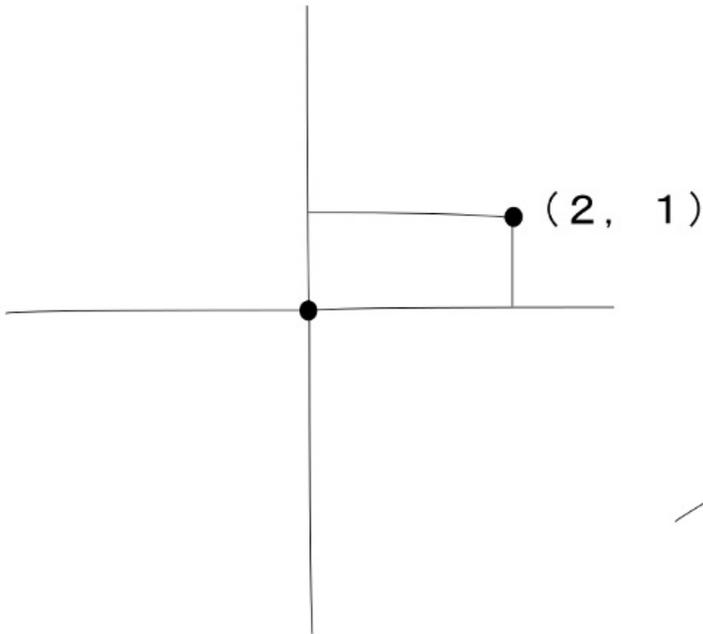
また、あたかも……

未だに「脳内の出来事」の手記であるような(??)これは(今回は)  
何にせよ、急ぎの内容で...とのみみたいなことです  
そのほかの比較的重要なこととしては……横文字で表記したとしても  
現状ではイズムが「ism」でないという点が有ったはずで  
ここにご注意頂きたいのです  
特段の意味を以て、この綴りが「ism」と違えてるように御覧なら  
(お問い合わせ賜ったかたには)別の機会に御説明できればと思います  
この世界に入り込まれる人に……

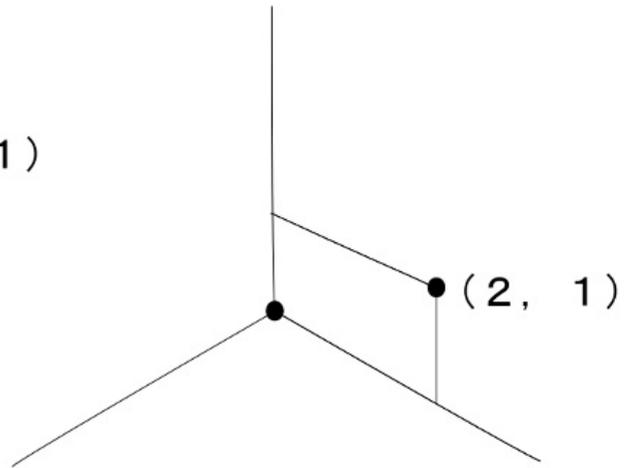
(※なぜそれについてここに詳しく書かないかといえは  
こういう感じのことがあるからです  
言葉への「或る特殊な警戒」のために、より良い  
ネーミングをする...というようなことが先ずあるのであって  
「ism」が接尾であることでどういう文字列になるか...とのみみたいな話ですが  
「警戒」ということか必ずそうなる(避けなければならない)とのわけで  
なく、この場合「仮説」のような思想的前提に副う文字(文字列)の解釈から  
くるのであるかどうか...寧ろこの「仮説」が具体的な事実に関わりうるために  
「仮説の園」のようなこの本……でも書き辛い……  
とのごとき意味であるかします、あらかじめあしからず御了承を)

(※言葉そのものが文明によってもたらされたはずのもので  
文明を(自己の中で)壊していくのであれば  
言葉の表の意味や、裏の仕組みも壊す必要ありえ、ということでしょうけれども……  
そうであれば、正にかで  
そのこと(そのための...それが念のためのであれ、  
「ism」の回避)であろうし、大きな裏の仕組みの  
仮説(無数の隠された具体的事実)に触れうるので  
あるなら益々書き辛いということかもしれないわけです)

平面



平面



【B】どこかに  
隠れていた世界観 (?)

【A】これが全てだと  
思われている世界観 (?)

数学でなかろうとも (図を御覧ください)

これは数学でなくても良いのですが

(解説)

X軸、Y軸というのは

どこかで習われたことと思いますけれども (左図) ...

どうやらフツのX軸・Y軸を使わなくても

(X軸、Y軸を使う方式と同様に)

平面上の或る点 (位置) を表現できるようなのです

例えば点 (2, 1) というのは

X軸の上を「2」だけ移動してですね、さらに  
Y軸の分（1）だけ、Y軸と平行にあがったところに在ると言えるでしょう  
（どちらの図でもそうなっているはずですね）

フツのX軸・Y軸でなくてですね、3本の...軸のようなもの（右図）でも  
（というか……もしもこれが軸だとしてもマイナスが無いわけで  
区別の便宜上、「翼（ヨク）」と呼びますが）同様に、点（位置）を  
表現出来てしまうのでないか...というようなことなのですね

こういう空間（世界観）を  
否定的にでも  
学校教育などで教わった（紹介された）ことが有ったでしょうか

（「別の世界観」が  
何人かに発見されて隠れているなら...）

# 平面表現にの拡張余地

(A図として) 思想内容とも関係しますが筆者は頭が悪くなく、ただ位置を少字数で指定するような図ほどのものです、メンガーのスポンジに似ていますが別物でして(数字は位置指定的な)

4	5	6									
3	0	7									
2	<table border="1"><tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>3</td><td>0</td><td>7</td></tr><tr><td>2</td><td>1</td><td>8</td></tr></table>	4	5	6	3	0	7	2	1	8	8
4	5	6									
3	0	7									
2	1	8									

(B図として) これは表現の問題で異なる距離感(各パラメ)を並置した平面というような試みだけで、これも重要でないので詳細は飛ばします(数字は距離感的な)

基点からの三本の距離表現の平面

